

1 課題「地域資源を活かした関係人口の創出」

2 連携機関名 垂水市(企画政策課)

3 課題解決に向けた目標・取組等

○目標 学生が大学で学んだ知識、現地での地域活動の中で得られた体験・学びを基に連携事業を実践し、垂水市の魅力を発信、関係人口増加につなげる。

○取組 既存の特産品(つらさげ芋)を利用したメニューの開発
垂水市公式ゆるキャラ「たるたる」のグッズ開発、たるたるタオルの販売
新観光テーマ「キャニオニング」「漁業体験」のPR ほか

4 取組実績(実施日・目的及び内容・場所・参加者等)

5月9日 取組に係る支援業務委託の提案(本学)

垂水市担当者2名、教職員3名、総広1名

5月24日 今後の連携活動に関する目標・取組資料の送付

垂水市担当者へ

7月21日「新観光テーマ猿ヶ城溪谷 森の駅たるみず キャニオニング」体験

垂水市担当者、教員1名、学生2名、総広1名

8月10日 KKB ぷらナビ+垂水でぷらっと散策で、7月21日のキャニオニング等の様子を放送

9月3日「新観光テーマ猿ヶ城溪谷 森の駅たるみず キャニオニング」体験

垂水市担当者、本学教員1名、学生8名、総広1名

9月18日「漁業体験:カンパチ養殖場での餌やり、冷凍庫体験等」

垂水市担当者1名、教員2名、学生15名、総広1名

11月23日「フィールドワーク つらさげ芋の生産地～大野地区訪問」

レシピ提供のあんぱんとクイニアマンの試食、学生プレゼン、餅つき

垂水市担当者、教員2名、学生10名、総広1名

11月28日「たるたるたおる」「たるたるてぬぐい」商品完成

12月2日「カンパチペースト・カンパチミート第1回試作検討会」

垂水市担当者、教員2名、学生6名、総広1名、KKB

12月16日「カンパチペースト・カンパチミート第2回商品開発検討会」

教員1名、学生6名、KKB

12月23日「第2回カンパチペースト・カンパチミート商品販売に向けた検討会」

教員1名、学生6名、城山ストアー、KKB

- 1月31日「第2回カンパチペースト・カンパチミート商品販売に向けた検討会」
垂水市担当者、教員1名、学生6名、城山ストア、KKB
- 2月19日 令和6年度の連携事業に係る報告及びフィードバックほか(垂水市)
垂水市長、副市長、教育長、水産商工観光課、企画政策課
教職員3名、学生18名、総広1名
大野地区つらさげ芋使用のいもクリームパン、スイートクッキータルトを
「アマンカ」にて販売
- 2月28日 令和6年度「地域連携会議」当該年度活動報告・評価、次年度計画確認等
垂水市他、本学との包括連携先:3自治体より計5名
学長、副学長、教職員11名
- 3月7日 城山ストアアミュプラザ鹿児島店にて、カンパチミート商品販売

5 連携事業の効果と評価について

(1)参加した学生全員が、本事業を通して垂水市との関係を構築しながら、地域に関する知識を獲得しつつ地域活性化事業に取り組んだことにより、地域貢献に資する人材育成の一助となった。

(2)垂水市長をはじめ、行政自治体の長を務める人々の前でプレゼンや報告会を行うなど、学生が普段体験できない機会を提供することができ、大学で身につけた能力を実践の中で高めることができた。

(3)キャニオニング体験や漁業体験を通して地域の観光資源や特産品について知識を得るとともに、地域社会の一員としてのローカルアイデンティティを自覚する契機を与えることができた。

(4)未利用素材であるカンパチの中骨肉を用いた商品開発に取り組み、テレビや SNS 等各種メディアを通して発信することにより、鹿児島女子短期大学と垂水市の両者を PR することができた。

6 総括

人口約59万人の鹿児島市と、約1万3千人の垂水市における人の往来は、圧倒的に後者から前者に向かう流れが多く、鹿児島市近郊に住む学生の多くは、垂水市との関係が希薄である。地域内における人の移動の不均衡さが課題となっている中、鹿児島女子短期大学と垂水市との「地域資源を活かした関係人口の創出」を目的とする連携活動に、今年度は教養学科21名の学生と食物栄養学専攻6名の学生たちが参加した。前者は垂水市の公式ゆるキャラ「たるたる」のグッズ開発を前年度に引き続き継続しつつ、同時にメディアを通じた垂水市の魅力発信に取り組んだ。後者は、垂水市が日本一の生産量を誇る養殖カンパチの未利用素材を用いた商品開発に取り組み、実際に販売するに至った。

上記の取り組みの中で、学生たちは合計5回に渡り垂水市を訪れ、目的を達成するための活動を行った。学生たちは、活動を通して垂水市についてのさまざまな知識を得ると同時に地域の人々との交流を深め、自らが居住する場所以外の県内地域と携わることで、ローカルアイデンティティを自覚するきっかけを得る

と同時に、地域が抱える課題についての理解を深めることができたと言える。また、テレビや SNS 等のメディアを通して地域の魅力を発信する活動によって、参加した学生の友人・知人などを中心として情報が波及し、持続的に垂水市の魅力について PR できる結果に結びつけることができた。

7 今後の改善内容及び展開

前年度においては、活動目的の一貫性や活動成果が曖昧であった点や、垂水訪問時の活動内容が若干希薄であった点が改善点として挙げられていた。今年度はそれを踏まえて、活動内容の一貫性を意識し、訪問時の活動も明確に充実化させることができたと評価できる。ただし、成果指標が曖昧である点に関しては、前年度と同程度であったため、次年度は明確な成果指標を定めた活動を展開していきたい。また、垂水市の観光資源を体験することができたのは有益であったが、行って単に遊んで来ただけの活動になっていた感もあるという学生の意見もあった。次年度においては活動をより垂水市のPR活動に転換させる方法を定めてメディアリレーションズを充実化させられるよう改善していきたい。

令和6年度 垂水市との連携活動報告（写真）



5月 本年度の連携活動に係る協議



7月 猿ヶ城溪谷 キャンオニング



9月 漁業体験：カンパチ養殖場での餌やり



11月 フィールドワーク 大野地区訪問



11月～1月 カンパチペースト商品開発



2月 垂水市での報告・フィードバック



2月 地域連携会議



3月 カンパチミート商品販売
（城山ストアアミュプラザ店）